

改革第2幕へ持株会社

日本建設と並列子会社に



桐野社長

機動建設工業（桐野誠社長）は25日に開く臨

時株主総会で、株式移転方法による持ち株会社「日本インテグランドホールディングス」を設立する。2005年から取り組んできた経営体制の改革、コア事業の強化、建設を並列の子会社とし

た両輪体制を取る。資金面では、資本提携しているCLSAキャピタル・パートナーズ（本社・香港）が引き続き支援する。

持ち株会社移行は「コーポレートガバナンス（企業統治）体制・リスク管理体制の強化」「事業透明性の確保」「経営の機動性の向上」の3点が主な目的となる。

コーポレートガバナンス体制・リスク管理体制の強化では、持ち株会社に経営委員会を置き、日本建設の役員も参加する形でグループ戦略の企画

・立案・経営監督機能を果たす。子会社の業務執行機能を分離することで、各事業の責任の明確化と自立を促す。事業透明性の確保は、

現在、親会社の機動建設工業の売り上げが約130億円に対し、子会社の日本建設が約400億円

で、投資家などから企業グループの実態が分りにくくという指摘があった。このため、2社を並列に置き、両社がやる気の出る体制にし、分かりやすい情報開示を行う。

事業は、専門性を高め競争力を強化しながらも環境変化に応じた撤退や縮小を含め見直す。新規事業はM&A（企業の合併・買収）により投資効率

の高い分野へ進出していく。持ち株会社は、株式を移転する7月1日に大証2部に出場する予定で、機動建設工業の株式は上場廃止となる。

り組んできたことの結果が出て、体制も整った。成長の第2段階に入った。今後は持ち株会社を含めて、グループ全体として何ができるかが問われている」と話している。

桐野社長は「今まで取

建設通信新聞
平成20年4月15日（火曜日）発刊に掲載